

いびき症 三兄弟⑧ 減量治療の巻

さて今回はシェーブアップこと減量治療が話題です。いびき症のなりやすさは、ひとそれぞれの顔の骨格にそもそもその原因(素因)があり、その素因の大きさによっていびき症が発病する体重が決まります。素因の小さい人はかなりの肥満でも発病しなかったり、素因の大きい人は、瘦せていても発病することがあります。

いびき症三兄弟の無呼吸さんがうまくシェーブアップができなくて苦しんでおりますので、アドバイスをいただくためにお二人のゲストをお呼びしました。では、SR(エス・アールアカデミージャパン)の美人レポーターさん、ゲストのお二人にお話を伺って下さい。





普段はいい妻
なんですがね、
シーパップの音が
ブオーブオーッて
夜中に鳴っているでしょ、

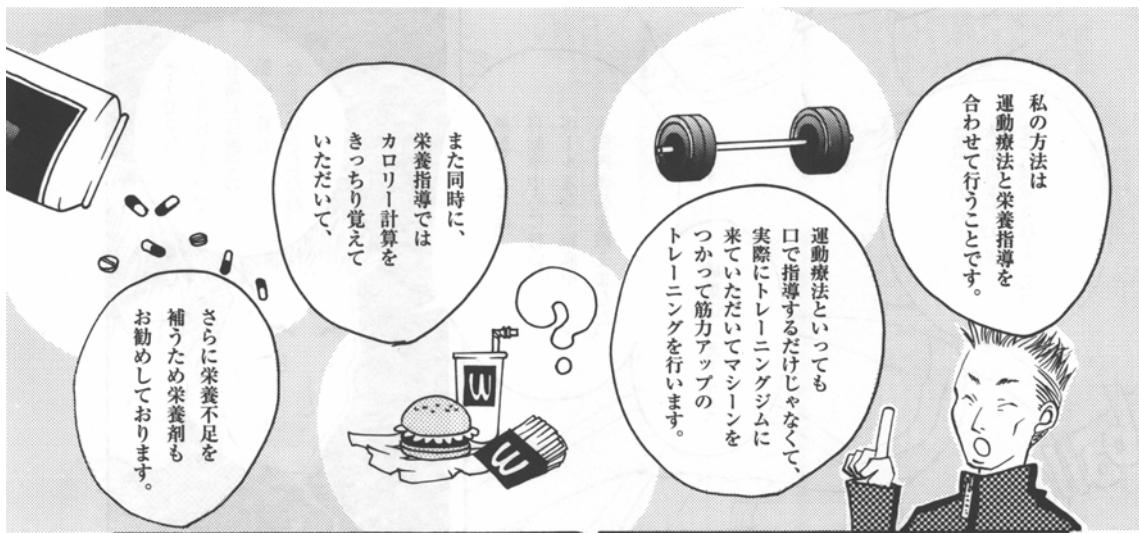
妻は不眠から
ノイローゼになつてしまつたんですよ。

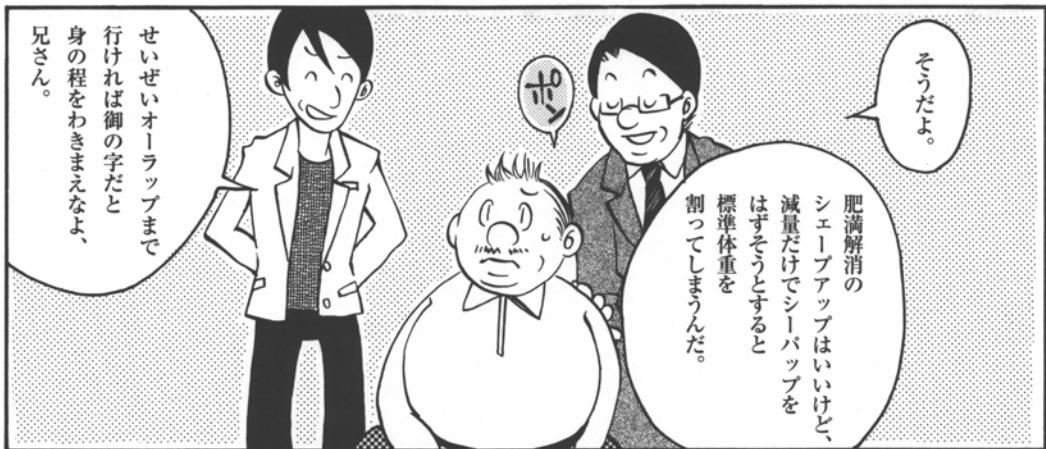
ろくな嫁をもらわなかつたんだな、
可愛そうに。



ところで、吉備志さんの
減量法っていうのは
どのような方法なんですか？









読者の皆さんお気づきだと思いますが、屋勢田(痩せた)さんと吉備志(厳し)さんは実在人物ではありません。ただ、減量方法やその結果は実際の患者さんの実際の結果です。科学的な根拠を持った減量法を行えば、このような素晴らしい結果も夢ではありません。

あとがき

駆け出しの頃、顎関節強直症という口の開かない病気の手術をした。頭蓋から下顎を切り離すと大きく口が開いて自由に噛めるようになった。しかしながら、術後のリハビリが終わる頃、突然に譲妄（せんもう）状態となつた。手術後より、大きないびきをかき、体動も激しかつた。友人の内科医と原因を探つたところ、睡眠時に呼吸障害があつて夜間一睡もしないことが判明した。

これが、およそ十五年前に筆者が経験した初めての閉塞型睡眠時無呼吸症候群の症例である。当時は現在のような治療法はなく、ただただ経過を見守るしかなかつた。ところが、その数ヶ月後に完治した。顎関節強直症が再発して再び口が開かなくなつたからである。

以来、顎の骨格に注目することにした。肥満が原因と言われる閉塞型睡眠時無呼吸症候群が、体重とは無関係に、手術による顎面骨格の変化と共に発症し、その変化が元に戻ることによつて治療することに興味を抱いたからである。

本書は、前述の第一症例から二千例弱にまで至つた筆者の経験を基に、閉塞型睡眠時無呼吸症候群という堅苦しい病気の診断法や治療法について医学書では珍しいコミックという手段でできるだけわかり易く書いてみた。この本が、患者様ばかりでなく医師、歯科医師、臨床検査技師など睡眠医療に携わる方々にも役立つことを願つてやまない。

平成十五年五月

河野
正巳

河野 正己 (こうの まさき) 略歴

長野県中野市生まれ

県立長野高校卒

新潟大学歯学部卒

新潟大学大学院歯学研究科修了

新潟大学歯学部附属病院第一口腔外科勤務（講師）

日本歯科大学いびき診療センター勤務（診療科長）

歯科医師

歯学博士（新潟大学）

日本口腔外科学会認定医

日本歯科麻酔学会認定医

日本睡眠学会認定歯科医師

いびき症三兄弟

2003年6月1日初版第一刷発行

原作者 河野 正己

発行所 特定非営利活動法人（NPO） エス・アール アカデミージャパン

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-18-11 堀内三崎町ビル5F

電話 03-3511-7971 FAX 03-3511-7972

<http://www.sraj.jp>

特許登録第3556号
発行 エス・アール アカデミージャパン
定価 本体600円+税